

第35回水の週間実施報告書



平成23年9月

水の週間実行委員会

第35回水の週間中央行事は、後援機関、協力団体

及び協賛団体の皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

国土交通省 東京都 水の週間実行委員会

後援機関

文部科学省 厚生労働省 農林水産省
経済産業省 環境省 (独) 水資源機構
公益財団法人 日本科学技術振興財団 日本放送協会 (社) 日本新聞協会

協力団体

TOTO(株) 三菱レイヨン・クリンスイ(株) 電源開発(株)

協賛団体（五十音順）

(財) 河川環境管理財団 (財) 河川情報センター (社) 建設広報協議会
(社) 建設コンサルタンツ協会 (財) 国土技術研究センター (財) 砂防・地すべり技術センター
(財) 砂防フロンティア整備推進機構 石油連盟 (社) セメント協会
(社) 全国建設業協会 (社) 全国建築物飲料水管理協会 (財) ダム技術センター
(財) ダム水源地環境整備センター (社) ダム・堰施設技術協会 電気事業連合会
(社) 日本埋立浚渫協会 日本衛生設備機器工業会 一般社団法人 日本ガス協会
(社) 日本橋梁建設協会 (社) 日本経済団体連合会 (社) 日本建設機械化協会
(社) 日本建設業連合会 (社) 日本水道工業団体連合会 日本製紙連合会
一般社団法人 日本鉄鋼連盟 一般社団法人 日本電機工業会 (社) 日本ホテル協会
(社) 日本林業土木連合協会 ビール酒造組合 (財) リバーフロント整備センター

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット (社) 日本水道協会 (財) 利根川・荒川水源地域対策基金
一般財団法人 造水促進センター 全国簡易水道協議会 (社) 日本治山治水協会
(社) 日本下水道協会 公益社団法人 土木学会 公益社団法人 日本河川協会
(財) 日本ダム協会 (社) 農業農村工学会 (社) 日本工業用水協会
(独) 水資源機構 NPO法人 日本水フォーラム

(目 次)

第35回「水の週間」の開催にあたり	2
第35回「水の週間」水を考えるつどい皇太子殿下お言葉	3
第35回「水の週間」行事の概要	4
「水の週間」水を考えるつどい	5
水の週間中央行事「水の展示会」	9
平成23年度水資源功績者表彰	16
第33回全日本中学生水の作文コンクール	18
第26回水とのふれあいフォトコンテスト	20
水の週間記念 第31回隅田川レガッタ	23
利根川水系における上下流交流	26
水の週間一斉打ち水大作戦	27
国や地方公共団体等での実施状況	28
第35回水の週間新聞等報道状況	31
「水の週間」実施経過	34
水の週間実行委員会について	36

※表紙の写真は、第26回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「期待に胸ふくらませて」：早川英夫氏

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている8月の中旬が適当であるので、その初日である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第35回「水の週間」の開催にあたり



水の週間実行委員会会長 青山 俊樹

独立行政法人水資源機構理事長の青山でございます。

挨拶に先立ちまして、この度の東日本大震災により被害を受られた皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

本日ここに、皇太子殿下のご臨席のもと、第35回目の「水の日」及び「水の週間」を迎え、水を考えるつどいを開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

水の週間中央行事の開催にあたりましては、ご列席の皆様の格別のご理解とご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、この度の大地震では、東日本を中心とした広い範囲で多くの被害が生じ、普段、蛇口を捻れば当たり前のように使えた水が使えなくなりました。

皆様もテレビや新聞でご覧になった方も多いと思いますが、被災された方々が給水車に列をなしておられました。その光景を見てもわかるとおり、被災された方々がまず、求められたものは「水」だったのではないのでしょうか。

また、「水」は食料生産や工業生産といった経済活動に欠かすことができない資源でもあります。

「水の週間」の活動を通じて、この「水の恵み」を守り続けるために、広く国民の方々に水の大切さを理解していただけるよう、語りかけていく必要があると思っております。

最後になりましたが、水資源行政の推進に関して顕著な功績を挙げられた水資源功績者の方々、並びに「全日本中学生水の作文コンクール」及び「水とのふれあいフォトコンテスト」において優秀な成績を収められた方々に対して心からお慶びを申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成23年8月1日

水の週間実行委員会会長 青山 俊樹

第35回「水の週間」水を考えるつどい

皇太子殿下お言葉



挨拶に先立ち、3月11日の東日本大震災及びこの度の「平成23年7月新潟・福島豪雨」で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を表します。東日本の広範な地域に大きな被害をもたらした震災から5か月がたとうとしています。今なお、多くの被災者が、全国各地で避難生活を送っています。改めて、御遺族と被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、この災害からの復旧・復興が一日も早く進むことを願っております。

本日、第35回「水の週間」水を考えるつどいが多くの関係者の出席を得て開催されることを誠に喜ばしく思います。

水はあらゆる生命の根源となる基本的資源であり、我が国は、水資源と水供給施設を守り育てることにより、水がもたらす恵みを受けてきました。

しかしながら、今回の大震災においては、水道施設や工業用水施設、農業水利施設に大きな被害が生じ、水道では少なくとも約230万戸が断水し、被災地の生活に深刻な影響を及ぼしました。水は、私たちの日常生活に欠かすことのできないものである一方で、ときには大きな災害をもたらす恐ろしいものでもあることを、改めて私たちは認識することとなりました。

こうした未曾有の災害に対し、全国の自治体や関係団体等が協力し、施設の応急復旧や応急給水活動などを迅速に行い、現在も本格的な復旧や復興に取り組んでいます。このような活動に心から敬意を表します。

水は限りある貴重な資源です。水資源を安定的に確保し、その有効活用を図ることは、国民生活を守り発展させるための根幹となるものであり、今後とも、水資源対策が一層充実されることが望まれます。

我が国の発展を支えてきた「水の恵み」を守り続けるためには、多くの人たちの取組が必要です。本日、水資源功績者として表彰される方々の活動は誠に意義深いものであり、そのたゆみない努力に対し敬意を表します。また、作文コンクールとフォトコンテストに入賞された方々に敬意を表したいと思います。

終わりに、「水の週間」の諸行事を通して、水の大切さに対する国民の関心と理解がより一層深まることを願い、私の挨拶といたします。

第35回「水の週間」行事の概要

行 事	実 施 内 容	主 催 者 等
水の週間中央行事	<p>1. 水の展示会 日時:平成23年7月29日(金)～31日(日)9:30～16:50 場所:科学技術館(2階展示ホール) ※初日のみ10:30～ 内容:水の週間のテーマに沿った各種展示のほか、平成23年度水資源功績者を紹介。また、全日本中学生水の作文コンクール優秀賞作品、水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を展示</p> <p>2. 水を考えるつどい 日時:平成23年8月1日(月) 13:30～16:30 場所:科学技術館(地下2階サイエンスホール) 内容:①主催者挨拶 ②皇太子殿下御言葉 ③水の週間関連表彰式 ・水資源功績者表彰 ・全日本中学生水の作文コンクール ・水とのふれあいフォトコンテスト ⑤シンポジウム ・テーマ「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」 ⑥報告</p>	主催:国土交通省 東京都 実行委員会(注) 後援:文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 環境省 (独)水資源機構 公益財団法人 日本科学技術振興財団 日本放送協会 (社)日本新聞協会
水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与	主催:国土交通省
第33回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生による水の作文コンクールを実施 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:国土交通省、都道府県 後援:文部科学省 全日本中学校長会 (独)水資源機構、実行委員会
第26回水とのふれあいフォトコンテスト	「水辺の憩い、水のある風景」、「くらしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマとしてフォトコンテストを実施 優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与	主催:実行委員会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構
水の週間記念第31回隅田川レガッタ	日時:8月7日(日) 10:00～16:30 場所:隅田川(言問橋～吾妻橋間) 内容:一般・中学生等によるエイト、ナックルフォアを実施 隅田川レガッタと隅田川浄化用水に関する啓発活動	主催:(社)東京都ボート協会 後援:国土交通省、東京都 (独)水資源機構外 協賛:実行委員会外
利根川水系上下流交流会	流域として密接なかかわりを有する上下流の交流を目的として開催 「草木湖まつり」での上下流交流 8月15日(月)	主催:群馬県みどり市外 協力:東京都墨田区 東京都水道局、実行委員会
水の週間一斉打ち水大作戦	日時:8月1日(月)～8月7日(日) 場所:趣旨に賛同いただける団体の建物前ほか 内容:雨水や風呂の残り湯など、水道水以外の水を有効利用し、クーラーにない「涼」を実感	主催:国土交通省、都道府県外
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに(独)水資源機構等において実施	主催:都道府県 (独)水資源機構外
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施 ・ポスターの配布・掲示 ・啓発冊子(日本の水)の配布 	

(注)「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

「水の週間」水を考えるつどい



「水の週間」水を考えるつどい（皇太子殿下ご臨席）

平成23年8月1日（月）、北の丸公園（東京都千代田区）内の科学技術館（サイエンスホール）において、「水を考えるつどい」を開催しました。

「水を考えるつどい」では、主催者である三井辨雄国土交通副大臣、青山俊樹水の週間実行委員会会長及び村尾公一東京都技監による挨拶の後、皇太子殿下よりお言葉を賜りました。

続いて、水の週間関連表彰式として「平成23年度水資源功績者」「第33回全日本中学生水の作文コンクール」「第26回水とのふれあいフォトコンテスト」の表彰式が行われました。

表彰式終了後、「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」と題して、皇太子殿下にもご聴講頂き、シンポジウムを行いました。

シンポジウムは2部構成で行われ、第1部では「「水」が脅かされた東日本大震災」と題し、津波で甚大な被害を受けた佐藤仁宮城県南三陸町長、佐藤稔仙台東土地改良区理事長から水道施設や農業水利施設の被災状況等の報告とともに、被災地へ直接の応援活動を行った狩野裕二東京都水道局配水施設工事連絡調整担当課長から報告をいただきました。

また、第2部では「東日本大震災を機にあらためて考える「水の恵み」と題し、これまで「水」がもたらしてきた「食料・農業」「エネルギー」「文化」の観点から、荘林幹太郎学習院女子大学教授、井上素行立命館大学チェアプロフェッサー及び宮村忠関東学院大学名誉教授に講演をいただきました。

当日は来場された方々（約250名）が津波の動画や被災状況の写真を用いた報告を熱心にご覧になられていました。

◆主催者挨拶



三井辨雄国土交通副大臣



青山俊樹水の週間実行委員会会長



村尾公一東京都技監

◆水の週間関連表彰式



第33回全日本中学生水の作文コンクール



平成23年度水資源功績者



第26回水とのふれあいフォトコンテスト

◆シンポジウム

第1部 「水」が脅かされた東日本大震災

- ①宮城県南三陸町からの報告 佐藤 仁（南三陸町長）
- ②仙台東土地改良区からの報告 佐藤 稔（仙台東土地改良区理事長）
- ③東京都水道局からの報告 狩野 裕二（東京都水道局配水施設工事連絡調整担当課長）

第2部 東日本大震災を機にあらためて考える「水の恵み」

- ①「水の恵みがもたらす食料と農業」 荘林 幹太郎（学習院女子大学教授）
- ②「水とエネルギー」 井上 素行（立命館大学チェアプロフェッサー）
- ③「水が織り成す美しい文化・心のふるさと」 宮村 忠（関東学院大学名誉教授）



シンポジウム「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」



佐藤 仁 町長



佐藤 稔 理事長



狩野 稔 課長



荘林 幹太郎 教授



井上 素行 チェアマン



宮村 忠 名誉教授

◆報告

①巧水（たくみ）スタイル推進チームの活動報告

山海 敏弘（独立行政法人 建築研究所上席研究員）

②「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2011」大賞企画の紹介

林 靖人、加島 佑桂、林 正平（信州大学）松澤 秀樹（長野県大町市）



山海 敏弘 上席研究員



信州大学、長野県大町市

水の週間中央行事「水の展示会」

7月29日から31日までの3日間、科学技術館（千代田区北の丸公園内）において、水の週間中央行事「水の展示会」を開催しました。



水の展示会開会式

（左から長谷川明 東京都都市整備局次長、
谷本光司 国土交通省水管理・国土保全局水資源部長、青山俊樹 水の週間実行委員会会長）

今年は「水の恵み ～東日本大震災を機に考える～」をテーマとして、多くの組織、団体による多彩な展示が行われました。また、特別展示として「東日本大震災～被災地の記録～」と題して「水」が私たちの日常生活に欠かすことの出来ないものである一方、自然災害の脅威となることを被災地の写真を通じて紹介したほか、「平成23年度水資源功績者」、「第33回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第26回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品を展示しました。

展示期間中は、民間企業の展示をはじめとして、参加体験型のコーナーが設けられるなど、各出展団体による趣向を凝らした展示が行われ、また、同時期に開催された“青少年のための科学の祭典”（7月30日、31日）に訪れた親子連れを中心に約4,700名の方々にご来場いただきました。

◆展示テーマ 「水の恵み ～東日本大震災を機に考える～」

「世界の水・日本の水」	【国土交通省】
「なるほど！だから「安心」東京水」	【東京都水道局】
「東日本大震災の対応について」	【独立行政法人 水資源機構】
「荒川を「知り」・荒川に「親しみ」・荒川を「考える」 ～身近な荒川にふれてみよう！～」	【国土交通省 関東地方整備局】
「途上国の人々に生命（いのち）の水を！」	【独立行政法人 国際協力機構】
「ダムなんでも相談室ー水を治め、水を利するー」	【一般社団法人 ダム工学会】
「こんなにすごい！疎水の恵み」	【(社) 農業農村工学会】
「水のふるさと 森林」	【(社) 日本治山治水協会】
「水の恵みを享受できる世界を目指して」	【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】
「なんだろう？下水道って」	【(社)日本下水道協会】
「さりげなく節水・水を賢く使う社会へ」	【巧水（たくみ）スタイル推進チーム】
「TOTO 水まわり研究所「節水大作戦」」	【TOTO(株)】
「水道水を飲もう！」	【三菱レイヨン・クリンスイ(株)】
「エコ×エネ体験プロジェクト」	【電源開発(株)】

特別展示

平成23年度水資源功績者	【国土交通省】
第33回 全日本中学生水の作文コンクール 優秀作品	【国土交通省・都道府県】
第26回 水とのふれあいフォトコンテスト 優秀作品	【水の週間実行委員会】
東日本大震災 ～被災地の記録～	【水の週間実行委員会】

「水の恵み ～東日本大震災を機に考える～」

「主催者展示」



普段何気なく使っている水について、世界の現状と日本の現状等を紹介。

【国土交通省】 「世界の水・日本の水」



水道水の安全性及び安全確保の取り組みを紹介。

また、くみ置き・節水など非常時に備えた対応が学べるクイズ及び水の実験を実施。

【東京都水道局】 「なるほど！だから「安心」東京水」



東日本大震災による水資源機構施設の被害状況及び復旧状況、海水淡水化装置による被災地での給水活動を紹介。

【独立行政法人 水資源機構】 「東日本大震災の対応について」

「一般展示」



荒川の源流から河口に至るまでの現状と取り組み（治水・利水・環境等）や荒川の歴史（流路の変遷等）などについて、幅広い内容を紹介。

【国土交通省関東地方整備局】 「荒川を「知り」・荒川に「親しみ」・荒川を「考える」
～身近な荒川にふれてみよう！～」



日本において日々何気なく消費している水が、開発途上国、特にアフリカではいかに貴重であり、人々はいかに少ない水で暮らしているのか、水を得るためにどれだけ苦勞しているのかを紹介。

【独立行政法人 国際協力機構】 「途上国の人々に生命（いのち）の水を！」



「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。

【一般社団法人 ダム工学会】 「ダムなんでも相談室ー水を治め、水を利するー」

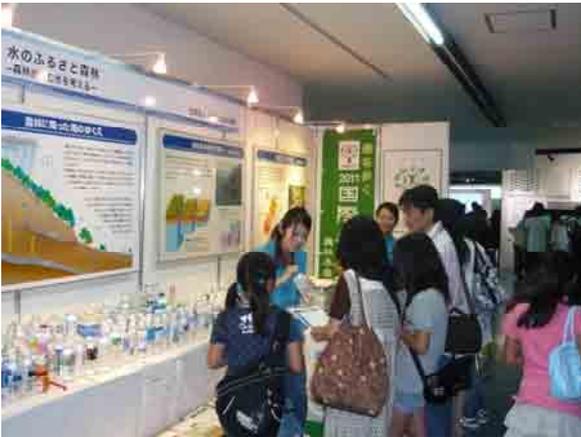
「一般展示」



歴史的に構築された疎水の恵みをパネル、3DTVを用いて紹介する。

また、農業を通じて育まれる文化や農村環境を、写真、模型等展示、クイズにより啓発活動を実施。

【(社) 農業農村工学会】 「こんなにすごい！疎水の恵み」



水を育む森林について、森林の働き等をパネルで紹介する。

また、全国各地で販売されている森林（もり）の水（ペットボトル）の展示と水の試飲（3種類）を実施。

【(社) 日本治山治水協会】 「水のふるさと 森林」



途上国における飲み水や衛生環境改善のための支援の活動（井戸や雨水貯留タンクの建設、トイレの建設等）を紹介。

【特定非営利活動法人 日本水フォーラム】 「水の恵みを享受できる世界を目指して」

「一般展示」



【(社)日本下水道協会】 「なんだろう？下水道って」

「下水道」は、汚い水や雨をきれいにする施設です。普段は目につきにくい下水道ですが、実は私たちの生活を快適なものにしてくれる下水道の重要な役割を紹介。



【巧水(たくみ)スタイル推進チーム】 「さりげなく節水・水を賢く使う社会へ」

「巧水(たくみ)スタイル」とは賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということ。「巧水(たくみ)スタイル ヒント! ボード」で楽しく紹介。



【TOTO株】 「TOTO水わまり研究所「節水大作戦」」

いつも身近に使っている水や湯は貴重な資源です。それを大切に工夫して使うことで、社会の節電につながることをわかりやすく展示&ワーキングで楽しく学んで頂きます。

「一般展示」



地球環境・エコのために。浄水器を使うことでできるCO₂排出削減やエネルギー削減などを紹介。また、その性能や仕組みを説明するために、ろ過実験を実施。

【三菱レイヨン・クリンスイ(株)】 「水道水を飲もう！」



“体験” “協働” “学びあい” そして“楽しむこと”を大切に、電気をつくる仕組みや森の役割を体感する楽しい実験で、水、森、電気のつながりを紹介。

【電源開発(株)】 「エコ×エネ体験プロジェクト」

「特別展示」



水資源行政の推進に当たって、特に顕著な功績のあった受賞者の功績概要について紹介。

【国土交通省】 「平成23年度水資源功績者」

「特別展示」



全日本中学生水の作文コンクールの優秀作品を紹介。

【国土交通省・都道府県】「第33回 全日本中学生水の作文コンクール」



水とのふれあいフォトコンテストのグランプリ及び優秀賞作品を紹介。

【水の週間実行委員会】「第26回 水とのふれあいフォトコンテスト」



水が私たちの生活に欠かすことの出来ないものである一方、自然災害の脅威となることを被災地の写真を通じて紹介。

(写真展示では、河北新報社、岩手県宮古市、宮城県登米市、陸上自衛隊東部方面総監部広報室に多大なご協力を頂きました。)

【水の週間実行委員会】「東日本大震災 ～被災地の記録～」

平成23年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、平成23年度水資源功績者として表彰されました。水源地域対策、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことが表彰の対象となり、第35回「水の週間」水を考えるつどいにおいて三井辨雄大造国土交通副大臣から表彰状が授与されました。

〔個人〕 3名

受賞者	功績概要
わたらい としまさ 渡會 俊正 (山形県)	庄内南部地域地下水利用対策協議会会長として30年間務め、地域住民や企業等へ地下水の適正利用に関する啓発、会員の研修会等の学習活動にご尽力された。
ほりぐち しげお 堀口 滋生 (群馬県)	下久保ダム水源地域ビジョン推進協議会会長等として、長年にわたり利根川水系神流川の水質保全や水辺環境の整備に取り組み、水資源の保全に貢献された。
しみず とよかつ 清水 豊勝 (千葉県)	印旛沼土地改良区理事長として、農業用水の循環利用を強化する「国営流域水質保全機能増進事業」を着工に導き、水利用の合理化と印旛沼の水質負荷軽減に貢献された。

〔団体〕 10団体

受賞者	功績概要
せんだいひがしとちかいりょうく 仙台東土地改良区 (宮城県)	一般市民の方々に水辺空間を散策しながら、水路や土地改良施設の役割、土地改良区の仕事を理解してもらうことを目的とした「六・七郷堀ウォーキング」や大沼ため池におけるゴミ拾いを市民と一緒にするなど、水資源の保全や水資源に関する普及啓発に貢献されている。
くちかわち かい 久知河内ホタルの会 (新潟県)	久知川流域において、農薬使用制限や河川の清掃活動、河川敷の草刈り伐採を行うなど、ホタルの生息環境を守る活動を実施し、地域の水資源の保全や水資源に関する普及啓発に貢献されている。
こまつとうぶとちかいりょうく 小松東部土地改良区 (石川県)	長年にわたり軽海用水を管理し、穀倉地帯への用水を安定供給するとともに、地域住民と連携した清掃ボランティアや歴史を伝える水土里の語り部活動等の啓蒙活動を実施し、水資源の保全や水資源に関する普及啓発に貢献されている。

<p>みずたじゅくがわいいんかい わき水田 宿川委員会 (静岡県)</p>	<p>田宿川において、ゴミの回収、水草の除去等の河川美化、水質浄化活動を地元の小中学生や地区外からのボランティア等の多数の参加のもとに継続的に実施し、水資源の保全や水資源に関する普及啓発に貢献されている。</p>
<p>かきたがわ ひがしふじ ちかすい まも 柿田川・東富士の地下水を守 る連絡会 (静岡県)</p>	<p>水道水源である柿田川湧水等の富士山涵養林への植樹活動により水源地の保全に取り組むほか、富士山のドングリを拾い自宅で育ててもらふなどの市民参加型の運動を展開し、広域的な水環境保全意識の向上に貢献されている。</p>
<p>ちようしがわぎよぎようきようどうくみあい 銚子川漁業協同組合 (三重県)</p>	<p>銚子川流域の環境保全のため、長年に渡り、関係団体と協力して行ふ河川清掃、地元小学校と協力した鮎やあまごの稚魚放流に取り組むほか、シンポジウム等を通じて、銚子川の環境を広く知ってもらうための啓蒙活動を積極的に行っている。</p>
<p>ほりかわ ほりかわどお うつく 堀川と堀川通りを美しくす る会 (京都府)</p>	<p>堀川及び堀川周辺の美化活動及び親水空間の整備を通じて、河川環境向上のための啓蒙活動に継続的に取り組むほか、地域の小中学生を対象に、堀川の今後を考える「堀川ジュニアサミット」を開催し、府民の水環境保全意識向上に貢献されている。</p>
<p>うきはぐん おおいしぜき とち かいりよう く 浮羽郡 大石堰 土地改良区 (福岡県)</p>	<p>歴史ある農業用水の配水操作にとどまらず、環境用事的な機能の発揮及び地域の排水機能を担うなど、多面的な機能を発揮させるため、地域の人々と連携し、良好な景観保全と施設の適正な維持管理に尽力されている。</p>
<p>と す し しんりんこうりゆうたい 鳥栖市森林交流隊 (佐賀県)</p>	<p>河内ダム上流に位置する鳥栖市民の森において、広葉樹の植栽、下草刈り、侵入竹の伐採除去、遊歩道の整備等に取り組むほか、近年は他のボランティア団体や地域住民、行政、企業等と協働して、河内ダム周辺の森林づくりの展開に尽力されている。</p>
<p>ざいだん ほうじん なかつえむら ちきゅう ざいだん 財団 法人 中津江村 地球 財団 (大分県)</p>	<p>筑後川上流の森林づくりを地元住民や下流域の都市住民とともにいき、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚に大きく貢献されている。</p>



第33回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外に居住する日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を開催しました。第33回を迎えた今年は、総数19,618編の応募がありました。各都道府県での応募作品について各都道府県で地方審査等が行われ、優秀とされた作文（各都道府県3編以内）が中央審査対象として送付され、その数は125編にのびりました。これら125編の中から、中央審査会において、最優秀賞1編、優秀賞5編及び入選29編が選ばれました。

今回の実施状況は、次のとおりです。

(1) 主催等

主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、独立行政法人水資源機構

(2) 募集要領

①テーマ：「水について考える」（題名は自由）

②原稿：400字詰原稿用紙4枚以内

③募集期間：平成23年6月15日（水）まで

ただし、外国に居住する者にあつては、平成23年5月27日（金）まで

(3) 応募状況

応募学校数：365校

応募総数：19,618編

(4) 中央審査会審査委員 ※50音順、敬称略

石川 裕 （国土交通省大臣官房審議官）

河野 克明 （独立行政法人水資源機構理事）

須田 淳一 （全日本中学校長会編集部副部長）

須磨 佳津江（キャスター）

長崎 宏子 （スポーツコンサルタント）

松明 淳 （社団法人日本水道協会調査部長）



第33回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	ふりがな氏名	学年	学校名
最優秀賞 国土交通大臣賞	宮城県	水のある風景がなくなって	にしまさかな 西牧 奏	3	いしのまきしりつししのまきゆうがっこう 石巻市立石巻中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	徳島県	命の源、「水」	ふじもと はるか 藤本 春佳	3	ひがし ちようりつ みよしちゆうがっこう 東みよし町立三好中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	島根県	日本の食文化を支える水の力	りゆうこう ふうか 柳光 風香	3	こうつしりつさくらえちゆうがっこう 江津市立桜江中学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	神奈川県	「水の顔」	さわたり 猿渡 みなみ	2	はやまちようりつ はやまちゆうがっこう 葉山町立葉山中中学校
優秀賞 国土交通省水管理・国土保全局水資源部長賞	香川県	ため池復権 - 僕たちの挑戦 -	たかた ともき 高田 知希	3	ぜんつうじしりつ ひがちゆうがっこう 善通寺市立東中学校
優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞	東京都	大切に守り続けたい荒川	こじま けいたろう 小島 啓太郎	3	あだちくりつ ひがしあやせちゆうがっこう 足立区立東綾瀬中学校
入選 (29編)	北海道	水のいのちを見守りたい	みずせき みほこ 水関 実法子	3	ほこだてしりつ まとばちゆうがっこう 函館市立的場中学校
	青森県	「人の命=水」の求められてる方程式	もり しゅう 盛 嵩	2	ひろさきがくいんせいあいちゆうがっこう 弘前学院聖愛中学校
	秋田県	水土の礎、秋田の場合	ごとう 後藤 ゆうひ	1	よこてしりつ つますだちゆうがっこう 横手市立増田中学校
	山形県	「水」を考える	あきば あやか 秋場 彩夏	3	かほくちようりつ かほくちゆうがっこう 河北町立河北中学校
	福島県	ふる里の水と共に	あらい まりあ 荒井 真愛	3	こおりやま しりつ こおりやまいなちゆうがっこう 郡山市立郡山第七中学校
	茨城県	水とともに	しだら みさき 設楽 美沙季	3	いばらきけんりつ なみきちゆうとうきょういっくがっこう 茨城県立並木中等教育学校
	栃木県	「水を考える」	ぬまの い しほ 沼野井 志穂	1	おおたはらしりつ のぎさちゆうがっこう 大田原市立野崎中学校
	千葉県	水と生きる	もり ちひろ 森 千尋	3	おおたまちようりつにしちゆうがっこう 大多喜町立西中学校
	千葉県	人と水	みなみ ゆうこ 南 裕子	3	ちばこくさいちゆうがっこう 千葉国際中学校
	東京都	一杯の笑顔	たかもと ゆり 高本 祐里	2	しぶ やきょういっくがくえんしぶ やちゆうがっこう 渋谷教育学園渋谷中学校
	東京都	かけがえのない「一滴の水」	かじ みゆ 鍛治 美佑	3	はちおうじしりつ みやかみちゆうがっこう 八王子市立宮上中学校
	神奈川県	宇宙で見つけた不思議なポトル	こいずみ まりあ 小泉 茉莉亜	2	ざま しりつにしちゆうがっこう 座間市立西中学校
	神奈川県	水のある風景	もみやま まい 靱山 麻衣	1	みそのじよがくいんちゆうがっこう 聖園女学院中学校
	富山県	僕と水との関わり	さんのう こうしろう 参納 幸志郎	2	たかおかしりつ こうりょうちゆうがっこう 高岡市立高陵中学校
	福井県	「もったいない」で世界を救え!!	だいでう ゆうか 大道 優香	3	えちぜんしりつ まんようちゆうがっこう 越前市立万葉中学校
	静岡県	二十ccの牛乳から学んだこと	はやし ゆうすけ 林 佑亮	3	がっこうほうじんこうせいがくえんはままつがくいんちゆうがっこう 学校法人興誠学園浜松学院中学校
	愛知県	甘い水	る じゃち 廬 嘉琪	2	ちりゆうしりつりゆうほくちゆうがっこう 知立市立電北中学校
	京都府	水はみんなのもの	つじ あんな 辻 晏奈	2	きょうとうがくえんちゆうがっこう 京都学園中学校
	奈良県	水の恩	なか はるこ 中 暖子	3	やまぞえそんりつ やまぞえちゆうがっこう 山添村立山添中学校
	山口県	「今私が思うこと」	おおた みひろ 大田 美宙	2	ひかえりつ やまとちゆうがっこう 光市立大和中学校
	香川県	「大切な水を守るために」	しみず みぶき 清水 美吹	3	たかまつしりつこくぶんじちゆうがっこう 高松市立国分寺中学校
	福岡県	「水」と人との関係	やまもと あやか 山本 彩加	3	く め しんあいじよがくいんちゆうがっこう 久留米信愛女学院中学校
	佐賀県	小さな一歩から始めよう	よしおか みお 吉岡 未央	3	がっこうほうじんまつおがくえんこうがくかんちゆうがっこう 学校法人松尾学園弘学館中学校
	大分県	「守り受け継いでいく水」	ど ひ のどか 土肥 温	1	おおいだいがくえんいっくがくがくぶさちゆうがっこう 大分大学教育福祉科学部付属中学校
	大分県	「水と共に生きる」	こてがわ ゆり 小手川 由莉	1	おおいだいがくえんいっくがくがくぶさちゆうがっこう 大分大学教育福祉科学部付属中学校
	宮崎県	水に対する二つの思い	よこた みき 横田 実季	3	みやざきけんりつみやざきにしこうりゅうこうさくちゆうがっこう 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
	宮崎県	私にとっての水	あんだう ゆき 安藤 有希	3	みやざきけんしんいぼそんりつまつおちゆうがっこう 宮崎県椎葉村立松尾中学校
	鹿児島県	流しっ放しの水	とくだ かのん 徳田 かのん	1	いけだがくえんいけだちゆうがっこう 池田学園池田中学校
	海外	一人一人にできること	はすもと みさと 蓮本 美里	1	にほんじんがっこう シドニー日本人学校

第26回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等 主催 水の週間実行委員会
後援 国土交通省、東京都、独立行政法人水資源機構
協賛 富士フイルム株式会社

テーマ

- ・水辺の憩い、水のある風景
- ・くらしの中で毎日使う水
- ・作物や草木を育て、エネルギーを生む水
- ・ダムや水路など水をつくる施設
- ・歴史とともにある街の中の水 等

募集期間 平成23年4月11日(月)～6月17日(金)
応募状況 総計 2,392点
表彰 平成23年8月1日(月)
第35回「水の週間」水を考えるつどいにおいて(グランプリ、優秀賞)
作品展示 平成23年7月29日(金)～31日(日)
東京北の丸公園内 科学技術館2F 展示ホール

審査員(敬称略)

中谷 吉隆 (写真家)
内田 勲 (写真家)
片岡 友理 (著述家)
石川 裕 (国土交通省大臣官房審議官)
河島 均 (東京都都市整備局長)
千田 淳 (水の週間実行委員会運営委員長)



第26回水とのふれあいフォトコンテスト受賞者一覧

〔グランプリ〕 国土交通大臣賞

はやかわ ひでお
早川 英夫 (埼玉県)

画題：「期待に胸ふくらませて」



〔優秀賞〕 3名

○ 東京都知事賞

たなか かずお
田中 和夫 (神奈川県)

画題：「日本橋 橋洗い」



○ 水の週間実行委員会会長賞

さいとう しげる
齋藤 茂 (埼玉県)

画題：「震災復興を願って」



○ 独立行政法人水資源機構理事長賞

みずの たかお
水野 敬雄 (富山県)

画題：「雪化粧」



〔特別賞〕 1名

○ 富士フィルム賞

なかだ ようこ
中田 陽子 (岡山県)

画題：「水容器のアート」



〔特選〕 5名

「カラフルな棚田」	平 嶋 英 美	(福岡県)
「参賀」	奥 畑 二 郎	(栃木県)
「五月の小川」	中 宮 昇一郎	(兵庫県)
「ハクレンジャンプの季節」	高 橋 洋	(栃木県)
「チャレンジャー」	塚 野 美津子	(福岡県)

〔入選〕 10名

「夏の午後」	早 川 恭 弘	「水かけみこし」	平 舘 徹
「水を吹く子」	藤 島 真 澄	「熱き入水」	泉 健 一
「産卵期」	犬 伏 純 市	「整備」	小 畑 一 弘
「釣り人」	平 山 弘	「百花繚乱」	深 井 征 子
「み魂流しの宵」	山 崎 泰	「溪流に咲く」	宇都宮 雅 江

※ この「水とのふれあいフォトコンテスト」は、「河川整備基金」の助成を受けて実施しております。

「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力（閣議了解）に基づき昭和 63 年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方募金委員会等が資金を拠出（寄付）して造成されているものです。

この基金の運用益（利息）から、安全で良好な“河川環境”を目指してよりよい“川づくり”に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。

河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。

水の週間記念 第31回隅田川レガッタ

隅田川は、水資源開発公団（現（独）水資源機構）武蔵水路事業により河川水を荒川から隅田川に導入する浄化用水の効果と東京都における下水道の整備事業が進んだことと、近年行われている新しい水辺空間の創出の効果とが相乗し快適な水辺空間を多くの市民に提供できる憩いの場となりました。

高度経済成長期以降の劣悪な水質に著しい変化を遂げ水質の浄化が進んだことにより人々の生活の場に再び戻ってきた隅田川の姿を喜び、水に親しむ“水の週間”行事の一環として昭和56年から開催され、春の早慶レガッタとともに夏の隅田川の風物詩として定着してきた「隅田川レガッタ」も今年で31回目を迎えました。

今年の隅田川レガッタは、天候にも恵まれた中での開催となり、レース前には恒例となっている主催者による競漕の安全とレガッタ開催の告知を兼ねた浅草寺への安全祈願を行いました。

多くの観客（約7,000名）が見守る中、参加登録62クルー（選手555名）にのぼる参加者の競漕と応援による熱戦が繰り広げられ、日頃から鍛えた自慢の腕を披露し観客からは惜しめない拍手が送られました。また、墨田区内の中学校吹奏楽部による「水のコンサート」や墨田区太鼓連盟による勇壮な和太鼓の応援演奏も行われ、水の週間記念隅田川レガッタの開催に華を添えました。

日 時	平成23年8月7日（日）10:00～16:30
コース	隅田川言問橋～吾妻橋（500m）
主 催	一般社団法人東京都ボート協会
後 援	国土交通省、東京都、墨田区、台東区、墨田区教育委員会、 独立行政法人水資源機構、社団法人日本ボート協会、 欧州連合駐日欧州委員会代表部、水の週間実行委員会
特別協力	墨田区立中学校吹奏楽部（墨田・吾嬬第二・堅川） 墨田区太鼓連盟
協 力	日本赤十字社東京都支部、関東漕艇学生連盟、財団法人東京都公園協会、 社団法人東京港運協会、全国内航タンカー海運組合、屋形船東京都協同組合、 東京都観光汽船株式会社、隅田川市民交流実行委員会、江東明るい社会づくり の会、墨田明るい社会づくりの会、台東明るい社会づくりの会、隅田川ローイ ングクラブ、向島五丁目西町会、金曜会
協 賛	墨田区観光協会、浅草観光連盟、協同組合浅草商店連合会 アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、東武鉄道株式会社 ライオン株式会社、隅田川文庫、船宿あみ清、船宿釣新、株式会社古川組 ホテルニュー魚眼荘、東京ガス株式会社、サンエー株式会社
競 漕	29レース
競漕種目	①一般男子エイト ②中学男子ナックルフォア ③中学女子ナックルフォア ④一般男子ナックルフォア ⑤一般女子ナックルフォア ⑥区市町村対抗ナックルフォア ⑦ボート教室対抗ナックルフォア



力漕するクルー



力漕するクルー



和太鼓による応援演奏



表彰式

水の週間記念 第31回隅田川レガッタ競漕結果

クルー名	順位	クルー名	順位
【一般男子エイト】		【中学女子ナックルフォア】	
MBC-H	優勝	錦糸中学	優勝
日本ボートマンクラブ	準優勝	竪川中A	準優勝
団塊号(無限)	3	竪川中B	3
大倉107	4	小松川第三中学校	4
警視庁ボートクラブ	5	【区市町村対抗MIXナックルフォア】	
稲門超漕ごう会I組	6	EDOGAWA CITY ROWIN GCLUB	優勝
白門艇友会「ちから」	7	墨田区漕艇部	準優勝
三田漕マスターズ	8	台東区役所	3
濃青会鶴見川	9	竪川中	4
矢切ローイングクラブ白鬚会	10	【ボート教室対抗男子ナックルフォア】	
四神会	11	レガッタクラブ フレンドシップ	優勝
パルテ会	12	「多摩川」ヤングタマちゃんズ	準優勝
駿台艇友会	13	メタセコイア	3
名古屋ローイングクラブ	14	EDOGAWAコーチャーズ	4
てんとう虫	15	【ボート教室対抗女子ナックルフォア】	
学習院桜艇会	16	「多摩川」レディース・タマちゃんズ	優勝
MBC-S	17	EDOGAWAマドンナ	準優勝
マスターズタマちゃんズ	18	アイリス	3
CONCORDIA RC	19	【一般男子ナックルフォア】	
蔵前・凶南連合会	20	団塊号(玄武)	優勝
ダークブルーズ	21	旧中川で漕ごう会	準優勝
MBC-J	22	女王様とそのしもべたち	3
【中学男子ナックルフォア】		MIZUボートクラブ	4
錦糸中学男子A	優勝	青い流星	5
「多摩川」ジュニア・タマちゃんズ	準優勝	Chiyo Row倶楽部	6
竪川中C	3	宮歯ローイングクラブ	7
錦糸中学男子B	4	YLKの星	8
江戸川区中学連合A	5	かわせみ	9
竪川中B	6	レークサイドローイングクラブ	10
錦糸中学男子C	7	学習院高等科	11
江戸川区中学連合B	8	M'sChildren	12
竪川中A	9	【一般女子ナックルフォア】	
		パルテ会	優勝
		「多摩川」レディースタマちゃんズB	準優勝
		ママさんパワーズ	3
		G. G. Generation	4

利根川水系における上下流交流

○ 「草木湖まつり」における上下流交流

8月15日（月）、群馬県みどり市東町の草木ダム下流の東運動公園において、約13,000名の方が来場し、「第34回草木湖まつり」が開催されました。

普段、私たちは当たり前のように水を利用していますが、その水を生み出すために、住み慣れた先祖伝来の土地から移り住んでいただくなど、水源地域の方々の大変なご苦労とご協力があったことはあまり知られていません。

草木湖まつりは、草木ダム建設に伴い移転した旧東村の移転者の方々に、年に一度はふるさとで楽しい日を過ごしていただきたいという想いと、利根川水系の水源地域の方々と下流流域で水を使用する人々との相互理解・相互交流を図り、上下流交流を促進しようという目的で開催されています。

当日は、メイン会場の東運動公園で「鱒のつかみどり」や「東京水のPR」など様々なイベントが行われたほか、草木ダムの見学会や上下流交流の一環として下流受益地である東京都から墨田区太鼓連盟の方々に参加し、あづま太鼓による勇壮な演奏を披露してお祭りを盛り上げました。



恒例・鱒のつかみどり



東京水のPR



草木ダム見学会



水の週間一斉打ち水大作戦

○ 水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省の状況

平成23年8月2日（火）昼休みに、中央合同庁舎3号館正面玄関前にて「水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省」を実施しました。

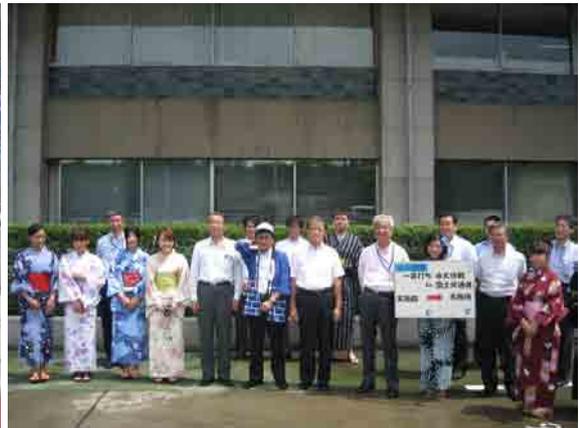
国土交通省職員の手作りによる「打ち水」イベントも、今年で8回目となり、夏の恒例行事として知られるようになってきました。平成21年度から「水の日」・「水の週間」に併せた「水の週間一斉打ち水大作戦」として取り組んでおり、今回の国土交通省で実施した取り組みも、その一つです。打ち水は、原則として、お風呂の残り湯や下水再生水などといった二次利用水を活用するため、水資源の有効利用に結びつくだけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献する取り組みとして、近年見直され、注目を浴びています。

打ち水に使用する水は、東京都下水道局から下水再生水を約400リットルご提供いただくとともに、国土交通省内のお風呂の残り湯、約100リットルを準備しました。

当日は、竹歳事務次官をはじめとして約70名の職員が参加しました。準備中には曇っていた空も、打ち水実施前には晴れ間も見え、気温も30℃を超えて、まずまずの「打ち水」日和となりました。浴衣で参加した職員が約15名にもおよび大変賑やかな打ち水イベントとなりました。

竹歳事務次官の「打ち水はじめ！」の号令とともに撒かれた水は、あっという間に広い駐車場を埋め尽くしました。みんなで一斉に行った結果、実施前には32℃だった温度が、10分程度の打ち水実施後、打ち水を実施していないところは34℃、実施したところは33℃で、実施したところの温度は、実施していないところと比べると1℃下がったという結果になりました。また、打ち水を実施してから20分程度経過した時点で、実施したところの温度は31℃まで下がり、会場には涼しい風が吹き抜けました。

皆様も打ち水を通じて水の大切さについて改めて考えてみてはいかがでしょうか。



国や地方公共団体等での実施状況

国土交通省をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に対する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

① ポスターの掲示

「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」を共通テーマとして刷り込んだポスター約19,000枚が作成され、関係府省庁、都道府県、市町村、中学校等に配布、掲示されました。

② 冊子の配布

平成23年版日本の水資源（水資源白書）の内容をわかりやすくまとめ、年齢層を広くカバーできる内容とした一般向け冊子「日本の水」が約20,000部作成され、都道府県をはじめ、市町村や小中学校、報道機関等を対象として、各種展示会、講演会、施設見学会等、水の週間の行事を開催するなかで幅広く配布されました。

③ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、水の週間中央行事である「水の展示会」、「水を考えるつどい」のほか、水の週間記念隅田川レガッタが実施されました。なお、「水を考えるつどい」の中で、水の週間関連表彰式（平成23年度水資源功績者、第33回全日本中学生水の作文コンクール、第26回水とのふれあいフォトコンテスト）及び「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」をテーマとしたシンポジウム等が執り行われました。

各都道府県等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、水の展示会、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰等の各種活動が実施されました（P30 参照）。

その他、民間の活動で、水の週間の趣旨に合致し、複数県を舞台にしているなど全国規模のものについて、水の週間中央行事の関連行事として後援しました（P29 参照）。

サントリー水育「森と水の学校」 夏キャンプ 白州校 奥大山校 阿蘇校

～「森で遊ぶ」「水にふれる」感動体験～

日時 8月1日(月)～2日(火)

主催 サントリーホールディングス株式会社

後援 水の週間実行委員会、環境省、山梨県、北杜市、鳥取県、江府町、熊本県、熊本市、各教育委員会

内容 “天然水のふるさと”で水を育む自然を体験し、水と森の関係、川の始まりなどを知る自然体験教室。夏キャンプでは、小学校4年生から6年生が宿泊をして、水と自然のつながりや地元の暮らしと水の関りを体験。

「水育」サイト <http://suntory.jp/MIZU-IKU/>



森と水の学校(阿蘇校)集合写真



川遊びの状況

日経MJフォーラム2011

「本格化する宅配水ビジネス」～利便性、安全性や健康志向で急成長する宅配水市場～

日時 8月1日(月) 13:00～16:00

主催 日本経済新聞社

後援 環境省、日本宅配水協会、水の週間実行委員会

場所 日経カンファレンスルーム(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル6階)

内容 東日本大震災によって、ライフラインの一つである水の確保が問題となり、同時に、社会全体の水に対する関心は高まりを見せていることから、水ビジネスの中で成長分野にあげられる宅配水ビジネスに焦点をあてながら、更なる市場拡大に向けた課題とは何か、「安全性」、「環境性」など様々な角度から議論。



基調講演状況



パネルディスカッション状況

第35回「水の週間」(平成23年度)都道府県等行事一覧

項目 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会 講演会・シンポジウム等	上下流交流 施設見学会等	街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・PR活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕 電光掲示板・立看板
全国	47	47	8	18	8	17	47	5	12	8	16	30	14
北海道	○	○		☆			◎					○	
青森県	○	○					◎						○
岩手県	○	○					◎						
宮城県	○	○					○						
秋田県	○	○		☆			○						
山形県	○	○	☆	☆	☆	☆	○				☆		
福島県	○	○				☆	◎		○			○	
茨城県	○	○	○	◎			◎	○	○	○	○	○	
栃木県	○	○					◎		○			○	○
群馬県	○	○	○				◎						
埼玉県	○	○					◎				○	○	○
千葉県	○	○		○		○	◎					○	
東京都	○	○	○			○	◎			○	○		○
神奈川県	○	◎				◎	◎				○	○	
新潟県	○	○					◎						
富山県	○	○	☆				◎			○		○	
石川県	○	○					◎						
福井県	○	○		○		○	○				☆	◎	
山梨県	○	○					○						
長野県	○	○				○	○						○
岐阜県	○	○		○			◎		○			○	
静岡県	○	○	○		◎		◎					○	◎
愛知県	○	○		☆		◎	◎			○	◎	○	
三重県	○	○		☆			◎					○	
滋賀県	○	○					◎					○	
京都府	○	○				○	◎		○		○		
大阪府	○	○		☆	☆	☆	◎			☆	☆	◎	☆
兵庫県	○	○					○						
奈良県	○	○		◎		◎	◎	○			○	○	
和歌山県	○	○					◎		○			○	
鳥取県	○	○		◎			○						
島根県	○	○					◎					○	
岡山県	○	○		○			○						
広島県	○	○					◎					○	
山口県	○	○					◎					○	
徳島県	○	○			◎	☆	◎		◎			◎	○
香川県	○	○		◎		○	◎			○	☆	○	
愛媛県	○	○	○	◎		◎	○		○		○		☆
高知県	○	○		☆	◎		◎	○	○		○		
福岡県	○	○			◎		◎		○		○	○	○
佐賀県	○	○				◎	◎				○	○	
長崎県	○	○		☆	☆		◎	☆	☆	☆	☆	◎	
熊本県	○	○	○		○	○	◎	○	○	○		○	○
大分県	○	○					◎					○	☆
宮崎県	○	○					◎					○	○
鹿児島県	○	○		☆			◎					○	
沖縄県	○	○				○	◎					○	○

注)「ポスター」欄の○は、全国共通版(国土交通省作成)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「パンフレット」欄の○は、「日本の水」(制作:国土交通省)を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。

「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。

それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。

☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第35回水の週間新聞等報道状況

月 日	新聞名	見 出 し
4月15日	読売新聞	「水」をテーマに作文 中学生の出品募る 県がコンクール
4月21日	神奈川新聞	「全日本中学生水の作文コンクール」作品募集
4月24日	宮崎日日新聞	第33回「全日本中学生水の作文コンクール」作品募集
6月11日	下野新聞	中学生「水の作文」 竹久保さんら5人に優秀賞
6月16日	福島民友新聞	荒井さん(郡山7中)ら優秀賞 県中学生水の作文 中央審査へ
6月16日	福島民報新聞	優秀賞に3人 中学生水の作文県コンクール
6月17日	釧路新聞	第33回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入選
6月22日	プレス空知	第33回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」優秀賞受賞
7月14日	中日新聞	打ち水大作戦で楽しくエコしよう！
7月16日	福島民友新聞	荒井さん(郡山7中)が入選 全日本中学生水の作文
7月20日	毎日新聞	満載イベント編 東日本大震災復興支援「すいた水循環フェア2011」 水はめぐる～うまれかわる水～
7月20日	神奈川新聞	コラムで「全日本中学生水の作文コンクール」優秀賞を受賞した猿渡さんの作品等について掲載
7月23日	サンケイリビング	information 東日本大震災復興支援すいた水循環フェア2011
7月25日	読売新聞	天然のクーラー楽しむ 布目ダム見学会
7月26日	岐阜新聞	あすから見学会 徳山ダム
7月26日	熊本日日新聞	水の週間記念式典 貴重な水をPR
7月27日	茨城新聞	並木中等教の設楽さん最優秀賞 水の作文表彰
7月27日	中日新聞	真夏のダム探検 青蓮寺ダム
7月29日	読売新聞	佐賀・古湯温泉女将ら涼を呼ぶ打ち水
7月29日	建設工業新聞	8月1日は「水の日」8月1～7日は水の週間 水の恵み～東日本大震災を機に考える～
7月30日	京都新聞	県中学生水の作文コンクール
7月30日	岐阜新聞	徳山ダム湖で初の遊覧
7月30日	日本経済新聞	8月1日は水の日 生活支える安全な水資源
8月1日	建設通信新聞	水の恵み 東日本大震災を機に考える 8月1日は「水の日」 8月1～7日は水の週間
8月1日	建設通信新聞	震災の教訓 後世に生かし、残す 水の週間実行委員会会長 青山俊樹氏に聞く
8月1日	朝日新聞	震災後の断水230万戸以上に 国交省白書
8月1日	日本経済新聞	水源多様化 節水も継続 水資源白書
8月1日	岐阜新聞	水ビジネスの国際展開強調 水資源白書 温暖化進行受け
8月1日	毎日新聞	わくわくダム見学 名張・比奈知 家族連れなど200人
8月1日	産経新聞	10年前のきょう 水が危ない(矢木沢ダム漏水)
8月1日	毎日新聞	涼呼ぶ打ち水
8月1日	読売新聞	打ち水で賢く節電
8月1日	長崎新聞	石木ダム建設で賛否両派が訴え
8月1日	北日本新聞	きょう8月1日は「水の日」
8月1日	読売新聞	特集「水の日」
8月1日	読売新聞	県が地下水保全の催し 作文朗読や節水グッズ紹介
8月1～7日	四国新聞	節水ウィークの呼びかけ

第35回水の週間新聞等報道状況

8月2日	朝日新聞	皇太子さま、水のつどいに出席
8月2日	読売新聞	皇太子さま、水のつどい
8月2日	毎日新聞	皇太子さま「水の週間」水を考えるつどいに出席
8月2日	産経新聞	皇太子さま、シンポジウムご聴講
8月2日	中日新聞	放流ゲートや操作室を見学 名張・比奈知ダム
8月2日	上毛新聞	堀口さん大臣表彰 国交省・水資源功績者
8月2日	徳島新聞	水の大切さ冊子配り訴え
8月2日	徳島新聞	全日本水の作文コンクール 藤本さん(三好中3年)優秀賞
8月2日	八重山毎日新聞	喜舎場大貴君が優秀賞 中学生水の作文コンクール
8月2日	宮古毎日新聞	渡久山さん優秀賞 中学生水の作文コンクール
8月3日	宮崎日日新聞	全日本中学生水の作文 県庁伝達式
8月4日	福井新聞	浄化水で打ち水涼し
8月4日	県民福井	下水処理水で涼しく 子どもら有効利用体感
8月4日	茨城新聞	霞ヶ浦楽しもう 湖上観察やコイ釣り 7日、行方でフェスタ
8月4日	南日本新聞	夏休み子どもたち学び遊べ 水道水に理解深めるー平川浄水場
8月4日	静岡新聞	知事賞に勝山、杉山さん 水の週間記念作文コンクール
8月4日	山陽新聞	工業用水の役割PR
8月4日	岡山日日新聞	工業用水の施設公開
8月4日	大分合同新聞	中津江村地球財団に国交省が大臣表彰
8月4日	建通新聞	水資源の大切さを楽しく学ぼう 水機構が宇連ダムなど見学会
8月4日	水道産業新聞	南三陸町の被害など報告 水を考えるつどい 東京水道の支援活動も
8月5日	朝日新聞	愛知用水上流 行って 見て 交流
8月5日	中日新聞	青蓮寺ダム施設見学会
8月5日	信濃毎日新聞	水源施設の牧尾ダム見学
8月5日	沖縄タイムス	「水の作文」コンクール 東江さんら表彰
8月5日	中日新聞	LET'S GO！ いっせい打ち水！ みんな、ひとつになろうよ！
8月6日	読売新聞	青蓮寺ダム施設見学会実施
8月7日	琉球新報	東江さんら3人水の作文優秀賞 県庁で表彰式
8月8日	中日新聞	長野・木祖村と愛知の子が交流
8月8日	朝日新聞	家族連れ大山ダム見学
8月8日	中日新聞	木曾川下流域の小中学生と交流
8月8日	佐賀新聞	涼しいね～ 打ち水で省エネ体験 佐賀城本丸歴史館
8月8日	神静民報	涼風招く打ち水
8月9日	静岡新聞	水の大切さをアピール 上下水道フェア
8月9日	静岡新聞	親子で水の大切さ学ぶ 中区で「上下水道フェスタ」
8月9日	中日新聞	利き水ゴックン！ 中区で上下水道フェスタ
8月9日	市民タイムス	木曾川流域 小中学生がキャンプ
8月10日	中日新聞	青蓮寺ダム見学会人気

第35回水の週間新聞等報道状況

8月11日	中日新聞	木曾川下流域住民 味噌川ダムを見学
8月11日	徳島新聞	今切川河口堰など見学 制水の仕組み学ぶ
8月12日	毎日新聞	青蓮寺ダム施設見学会
8月12日	市民タイムス	水道どこから？ 愛知の児童がダム見学
8月12日	桐生タイムス	草木ダムで15日に施設見学会
8月13日	上毛新聞	15日に草木湖まつり ダム見学も
8月13日	上毛新聞	下久保ダム見学 群馬と埼玉の児童が交流
8月14日	中日新聞	本日、いっせいで打ち水どき
8月16日	上毛新聞	親子が空き缶ボウリング 草木湖
8月20日	岩手日日新聞	水と人間 在り方紹介 中学生作文県コンクール 石井さん(西和賀・沢内3年)が最高賞
8月21日	長崎新聞	水の大切さ楽しく学ぶ
8月21日	読売新聞	水フェスタで飲み比べに挑戦
8月21日	南日本新聞	打ち水作戦涼感を演出 指宿駅前 50人参加
8月24日	岩手日日新聞	一滴でも大切に 中学生水の作文県コンクール 一関一高附 佐藤さん、千葉君が優秀賞
8月24日	日本下水道新聞	全国各地で打ち水 大阪市 池田市 名古屋市
8月25日	水道産業新聞	暑さしのぎは下水再生水の「打ち水」で
8月25日	日本水道新聞	各地で打ち水 猛暑を乗り切れ！
9月5日	日本水道新聞	安全・安心な水を安定供給 上下水道フェスタで多彩な催しを展開
9月8日	長岡新聞	水について理解を深めよう 長岡の中学生が大活躍

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

(国土庁発足 S49. 6.26)
(国土交通省に再編 H13. 1. 6)

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会(国土庁会議室) (ポスター、パンフレット) ○第1回水資源に関するシンポジウム (10.25)	・水の週間閣議了解(5.31) ・国連水会議(3.14～25) ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア'78 (銀座 松屋)	・水の週間実行委員会設立 (5.8、11団体) ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私 たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア'79 (船の科学館) ○第1回全日本中学生水の作文コンク ール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか(福岡市)	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水 で。ー	○ウォーターフェア'80東京 (科学技術館) ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しまし いのちの水・水とのであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア'81東京 (科学技術館) ○第1回ウォーターフェア隅田川 レガッタ ○ウォーターフェアポートピア (兵庫県)	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア'82東京 (科学技術館) ○第2回水資源に関するシンポジウム (8.3～5)	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア'83東京 (科学技術館)	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア'84東京 (科学技術館)	・水資源局から水資源部へ改組 (国土庁) ・国際河川博覧会(アメリカ・ニュー オリンズ)
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源とし て水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア'85東京 (科学技術館) ○ウォーターフェアKOB E (神戸市)	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう 水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア'86東京 (科学技術館) ○ウォーターランド(新宿副都心) ○第1回水とのふれあいフォトコンテ スト ○ダム子供マラソン(宮ヶ瀬ダム)	・水資源世論調査 ・冬期渇水(西日本)
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア'87東京 (科学技術館) ○第3回水資源に関するシンポジウム (浩宮殿下による特別講演) (8.4～5)	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画(ウォーターブ ラン2000)策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア'88東京 (科学技術館) ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア'89東京 (科学技術館)	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア'90東京 (科学技術館)	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水
平成3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア'91東京 (東京都庁)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備 考
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア'92 東京 (東京都庁) ○第 4 回水資源に関するシンポジウム (10.24)	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないから ね	○ウォーターフェア'93 東京 (墨田区役所)	・「国連水の日」制定 (3.22)
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア'94 東京 (墨田区役所)	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない 「水」	○ウォーターフェア'95 東京 (墨田区役所)	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20年。	○ウォーターフェア'96 東京 (科学技術館)	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア'97 東京 (科学技術館) ○第 5 回水資源に関するシンポジウム (8.4 ~ 5)	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア'98 東京 (科学技術館)	
平成 11 (23)		「当り前」ではありません！	○ウォーターフェア'99 東京 (科学技術館) ・水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画（ウオー タープラン 21）策定 ・小淵内閣総理大臣記念式典臨席、展 示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 (江戸東京博物館)	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'01 東京 (東京都庁)	・国土交通省発足 (1.6) ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'02 東京 (新宿パークタワー) ○第 6 回水資源に関するシンポジウム (8.2 ~ 3)	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア'03 東京 (科学技術館)	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'04 東京 (科学技術館)	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア'05 東京 (科学技術館)	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア'06 東京 (科学技術館)	・皇太子殿下 水の展示会行啓 ・17 年末に全国で大雪、降水量首都 圏は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア'07 東京 (科学技術館) ○第 7 回水資源に関するシンポジウム (8.3 ~ 4)	・春から 6 月にかけて西日本を中心に少 雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇 水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア'08 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすた め、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア'09 東京 ○水を考えるつどい (科学技術館)	・中国、九州北部を中心とした記録的 な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア'10 東京 ○水の週間記念シンポジウム (科学技術館)	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機 に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい (科学技術館)	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏

※ 全日本中学生水の作文コンクール、隅田川レガッタ、水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和53年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水の週間実行委員会設立趣意書

(昭和53年5月8日設立総会)

かつて、ケネディは「21世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといつてよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和52年に8月1日を「水の日」とし、この日から1週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げる必要がある。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長 青山俊樹（独立行政法人水資源機構理事長）

平成23年 8月 1日現在

団 体 名	実 行 委 員		運 営 委 員	
全国水土里ネット	専務理事	佐藤 準	所 長	奥田 透
造水促進センター	理事長	山本和夫	常務理事	秋谷鷹二
日本治山治水協会	会 長	山口俊一	専務理事	山田壽夫
日本河川協会	会 長	虫明功臣	常務理事	住吉豊明
日本工業用水協会	会 長	大村秀章	総務部長	芳田丈夫
日本水道協会	専務理事	御園良彦	調査部長	松明 淳
全国簡易水道協議会	会 長	井口一郎	事務局長	若松五常
日本下水道協会	会 長	倉田 薫	常務理事	石川 清
日本ダム協会	会 長	中村満義	専務理事	横塚尚志
利根川・荒川水源地域対策基金	理事長	志水茂明	事務局長	梶間谷 允
	理 事	藤井友竝		
日本水フォーラム	代表理事	竹村公太郎	代表理事	竹村公太郎
土木学会	会 長	山本卓朗	専務理事	大西博文
農業農村工学会	会 長	河地利彦	専務理事	小前隆美
独立行政法人水資源機構	理事長	青山俊樹	総務部長	大野雄一
	理 事	◎千田 淳	総務部次長	阿部広志

団 体 名	実行委員	運 営 委 員	
国土交通省（水資源部）	—	審 議 官	○石川 裕
		水資源政策課長	山本健一
		水資源計画課長	宮崎正信
		専門調査官	鷹箸俊孝
東京都（都市整備局）	—	局 長	飯尾 豊
		都市づくり政策部長	町田修二
		都市づくり政策部 水資源・建設副産物担当課長	池内光之

◎運営委員長 ○運営副委員長

第35回「水の週間」ポスター

水の恵み

岩手県宮古市提供

東日本大震災を機に

宮城県登米市提供

あらためて 考えてみませんか？

防衛省提供

静岡県提供

普段当たり前のように 使える「水」

第
35
回

8月1日は「水の日」
8月1日~7日は「水の週間」
水は限りある貴重な資源です

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、
国土交通省ホームページもしくは独立行政法人
水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間 検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008 埼玉県さいたま市中央区新都心1-1-2

独立行政法人 水資源機構 広報課内

TEL 048-600-6513